

第8回発言要録

- 司会：上田生活安全企画課課長補佐

ただ今から、第8回広島県「減らそう犯罪」推進会議を開催いたします。

本日の総合司会を務めさせていただきます，警察本部生活安全企画課の上田でございます。よろしくお願いいたします。

会長であります藤田県知事は，本日，諸事情により欠席されております。

つきましては，「広島県『減らそう犯罪』推進会議規約」第4条第4項に基づき，本日の会議につきましては，副会長であります岩崎警察本部長に会長代行を務めていただきます。

それでは，副会長からごあいさつを申し上げます。



- 岩崎副会長（警察本部長）

本来ならば，会長の藤田県知事がごあいさつ申し上げるところではございますが，諸事情により欠席でありますので，会長を代行いたしまして，ごあいさつを申し上げます。

本日，皆様には，御多用中にもかかわらず，第8回広島県「減らそう犯罪」推進会議に御出席を賜り，誠にありがとうございます。

お陰をもちまして，7年目を迎えます「減らそう犯罪」県民総ぐるみ運動については，県民，事業者，防犯ボランティアなどと協働・連携した官民一体の活動が幅広く展開されております。

こうした取組の成果として，本県の刑法犯認知件数は年々減少し，本年9月末の認知件数は，平成14年同期比で50%の減少となり，行動計画である「減らそう犯罪」ひろしまアクション・プランに掲げた，平成22年までに「ピーク時の半減を目指す」という行動目標の達成が現実味を帯びて参りました。

また，この運動を牽引する原動力となっている防犯ボランティア団体の団体数や構成員も増加するなど，「地域の安全は地域で守る」という県民意識の浸透を強く感じているところであります。

先般実施しました第7回「減らそう犯罪」県民アンケート調査では，県民の居住地における治安が「良い・良くなった」とする方は60パーセントを超える結果が出ており，これも委員の皆様をはじめ，この運動に参加いただいている全ての方々の熱意と御尽力の賜物であると，改めて，敬意と感謝の意を表する次第です。

しかしながら，一方で，犯罪被害に対する不安感を抱く者は依然として全体の半数を占めており，特に本年は，平成15年をピークに減少し続けておりました「ひったくり」の認知件数が倍増するとともに，「自転車盗」や「万引き」についても昨年と比較して増加するなど，予断を許さない状況にあります。

今後とも，運動目標である「だれもが“安全・安心”を実感できる広島県の実現」のため，皆様との協働・連携をより一層強化し，各種施策を推進して参りたいと考えておりますので，引き続き，御支援，御協力を賜りますようお願い申し上げます。



本日は、これまでの行動目標達成に向けた施策の推進状況や、このアクション・プランの最終年である平成22年に向けた取組施策等につきまして、御協議いただくこととしております。

委員の皆様には、忌憚のない御意見を賜りますよう、お願い申し上げまして、ごあいさついたします。

● 司会

ありがとうございました。

本来であれば、ここで、出席者のご紹介をさせていただくところですが、時間の都合上、お手元に配布しております出席者名簿によりまして、ご紹介に代えさせていただきますので、よろしく申し上げます。

(配付資料の説明・確認)

それでは、早速ではありますが、協議に移らせていただきます。
規約によりまして以後の進行を会長代行の岩崎副会長にお願いいたします。
岩崎副会長、よろしく申し上げます。

● 岩崎副会長

それでは、議事進行を務めさせていただきます。よろしく申し上げます。

本日の協議事項であります

- 広島県内の犯罪情勢等
- 「ひったくり」防止対策の推進状況
- 「振り込め詐欺」防止対策の推進状況
- 第7回「減らそう犯罪」県民アンケートの実施結果(概要)
- アクション・プランの平成22年(最終年)での重点的な取組施策についての説明を、事務局を担当しております、生活安全企画課から申し上げます。

● 事務局（渡辺減らそう犯罪推進本部参事官）

はじめに、資料1、「広島県内の犯罪情勢等」についてご説明いたします。

(「広島県内の犯罪情勢等」の説明)



● 事務局（齋藤減らそう犯罪推進室長）

資料2、「『ひったくり』防止対策の推進状況」についてご説明いたします。

(「『ひったくり』防止対策の推進状況」の説明)



● 事務局（棟杉減らそう犯罪情報官）

資料3、「『振り込め詐欺』防止対策の推進状況」についてご説明いたします。

(「『振り込め詐欺』防止対策の推進状況」の説明)



資料4,「第7回『減らそう犯罪』県民アンケートの実施結果(概要)」についてご説明いたします。

(「第7回『減らそう犯罪』県民アンケートの実施結果(概要)」の説明)

- 事務局(齋藤減らそう犯罪推進室長)
資料5,「アクション・プランの平成22年(最終年)での重点的な取組施策」についてご説明いたします。

(「アクション・プランの平成22年(最終年)での重点的な取組施策」の説明)

以上で,事務局からの説明を終わります。

- 岩崎副会長
ありがとうございました。
ただ今,事務局から説明していただきました,
 - 広島県内の犯罪情勢等
 - 「ひったくり」防止対策の推進状況
 - 「振り込め詐欺」防止対策の推進状況
 - 第7回「減らそう犯罪」県民アンケートの実施結果(概要)
 - アクション・プランの平成22年(最終年)での重点的な取組施策につきまして,委員の皆様方からの,ご質問,ご意見等があればお願いいたします。

〈質問・意見等特になし〉

それではこれから,委員の皆様方との意見交換ということで,自由にご発言をお願いしたいと思います。なお,これからの進行は,事務局をお願いいたします。

- 事務局(角井生活安全企画課長)
警察本部生活安全企画課長の角井でございます。
それでは,事務局の方で司会進行を務めさせていただきますので,よろしく申し上げます。
これから,「減らそう犯罪」に関しまして,委員の皆様から自由にご発言をいただきたいと思います。いかがでございましょうか。



〈質問・意見等特になし〉

それでは,皆様方に,事前に「減らそう犯罪」運動の取組等に関するアンケートをさせていただき,その回答をいただいておりますので,こちらから指名をさせていただき,発表をお願いしたいと思います。

それではまず,実際にボランティア活動等に参加されておられます大学生の方から,活動状況等についてお話しをいただきたいと思います。

では,最初に社会環境づくりのためのボランティア活動を行われておられます広島大学の永野委員をお願いしたいと思います。

● 永野委員（広島大学4年生）

学生代表として委員をさせていただいている広島大学4年生の永野晴香と申します。

私はこれまでBBS会員として様々な活動を行い、犯罪のない明るい社会をつくるために貢献してきました。

「BBS」はBig Brothers And Sisters Movementの略で、少年犯罪を起こした子ども達に年齢が近いことから、彼らの兄弟のように接して少年らの社会復帰を支援する団体です。

私がここで行っている主な活動としては、学習ボランティアがあります。これは、児童自立支援施設の子ども達に勉強を教えたり、彼らと交流を図ることによって、外部との交流の少ない子どもたちと関わったりする活動です。



この活動により、非行に走った子ども達が二度と同じことをしないように、そして社会に復帰し適応していけるように手助けしています。

また、保護観察中の少年らと清掃活動等を行い、彼らも社会の一員であるという自覚を持たせることを目的とした社会参加活動も行っています。私が参加した社会参加活動では、彼らが今何をやっているのか、これからの将来のことなどを話すことができ、またゲームによって交流をしております。

他にもBBS会員が最近参加し始めた活動として、少年補導の手伝いや中区の更正保護女性会の方の手伝いがあります。少年補導は地域の安全のために行い、BBS会員の数名が参加し、少年補導協議会の方と活動しています。更正保護女性会の方との活動では、毎週学習会や食事会をして小中学生の居場所作りを行っています。

この様に私たちは、少年らの再非行を防ぐと共に、地域の方々と協力し合いながら地域の安全に貢献しています。同時に、自分自身も少年犯罪についても深く考えるように努めています。

昨年、BBS会員から委員就任への推薦を受けましたが、それまでは、減らそう犯罪推進会議のことは名称でしか知りませんでした。しかし今年の会議に出席させていただき、広島県の様々な取組や施策、その動きを知ることができました。同時に、多くの人の思いを聞くことができました。活動の一つ一つは違ったもののように見えますが、根本となるのは「広島県を安全で明るい社会にしよう」という思いだと感じます。

私たちBBS会員が活動する際の思いも同じです。だからこそ私はこの意義ある活動をこれからも継続していきたいと考えています。

● 事務局（角井生活安全企画課長）

ありがとうございました。

子ども達に兄弟のように接しての非行防止や自立支援は、大変効果的な取組であると思います。今後もこの活動を継続していただき、青少年の健全育成にご協力をお願いいたします。

続きまして、委員の皆様の中でただ1人の10代ということですが、小学生の頃からボランティア活動をされるとともに、自転車盗対策の活動に取り組んでおられる比治山大学1年生の渡利委員にお願いしたいと思います。

● 渡利委員（比治山大学1年生）

先ほど御紹介いただきました，比治山大学1回生の渡利翼です。

今年度より，学生代表と言うことで，減らそう犯罪推進会議の委員となることとなりました。

先ほど，御紹介にもありましたとおり，私は小学校のころから，防犯ボランティアの活動に参加してきました。

今日は，自転車盗の防止活動についてお話をさせていただきます。

まず自転車盗は，その被害者が小学生から大人までと幅広い年齢層へ拡がりつつあるのですが，その防止対策も難しく，また，これからも増加するであろう犯罪のひとつだと考えられます。

以前，自転車盗対策の一環として地域のスーパーやJR・広島高速交通「アストラムライン」等で，自転車盗防止キャンペーンを数度行いました。

内容としては，自転車盗防止意識向上の為にチラシ配布や，別の日のキャンペーンでは，自転車の鍵やその他防犯登録等のチェックとして，自転車防犯診断等を行いました。

チラシ配布では，皆さんチラシを受け取り次第，興味を持っていただき，防犯意識向上はできたと思います。しかし，別の日に行った自転車防犯診断では，防犯登録をしている自転車の数は少なからずありましたが，ツーロックのかかっている自転車は数少ないのがわかり，また，鍵のついていない自転車もいくつか見つかりました。

また，自転車盗の類では，占有離脱物横領という一度盗まれた自転車をまた盗むという犯罪も多く挙げられています。

盗んだ子どもに聞いたデータでは，小学生は「あとで返せばよい」や「借りるつもりだった」，「悪くはないと思っていた」という考えや，中学生には，「少しの間なら大丈夫」，「ずっとここに置いてあったから」という考えが多く見られました。

そして，子どもたちは鍵のついていない自転車を良く狙ったり，馬蹄錠だけの自転車を選んでいるということもわかりました。

そこで，より多くの県民の皆さんに自転車盗がより身近な犯罪で，ツーロックの重要性を広めることが必要だと思えます。

しかし，自転車用の鍵は安価なものでは，数百円ではありますが，こじ開けられる可能性も高く，高価なものでは数千円と値段がかかります。また，ツーロックは鍵を掛ける際の時間も数分かかってしまい，なかなか需要を高めることは難しいのが現状です。自転車盗は，鍵掛けの重要性を広め，県民の皆さん一人ひとりの意識を高く向上することで未然に防げる犯罪だと私は思います。

この活動は，地道な活動ではありますが，より多くの人に理解してもらうことを目標に，私はこれからも続けていきたいと思えます。

● 事務局（角井生活安全企画課長）

ありがとうございました。

県民の方に自転車のツーロックの重要性を周知するには，地道な活動を継続することが重要であるということを感じさせられたご発言でございました。

今後ともご活躍を期待しております。

続きまして，「減らそう犯罪」運動の核となっただいていただいているボランティア活動



において、少年補導協助手員として様々な少年非行にかかるボランティア活動をされておられます吉川委員にお願いしたいと思っております。

● 吉川委員（広島県少年補導協助手員連絡協議会連合会代表）

少年補導協助手員の吉川でございます。

少年補導協助手員は警察のボランティア団体で、県下900名おります。

私の事例報告について、具体的に話をさせていただきたいと思っております。

今から8年程前に、暴走族や、元暴走族の少年を中心に立ち上げた、サッカーチーム「メダマン」は、警察を中心とした行政の強力な後押しのおかげもあって、現在では、一部世代交代もしていきながら、社会人リーグの準加盟を果たし、チームメンバーの8割が、四級審判の資格を取得することができました。チーム自体も今では、日々の練習や通常リーグ戦に関しては、私の手を離れて、自分たちで運営できるまでに成長してくれました。

結成当時の「メダマン」からは、想像することすらできなかった彼らの姿を、今、私は目の前にしております。私の体験から言わせていただければ、若さと言うエネルギーを秘めた少年たちは、どんな非行に走っていようと、どんな障害に突き当たっていようと、立直りのきっかけと、ほんの少しの気の利いた後押しをしてやることで、ほとんどの子どもたちは、立派な変身を遂げてしまうものです。多くの少年たちに、気の利いた後押しとエールを送り続けていただいた、警察並びに関係各位に、この場を借りてお礼を申し上げたいと思っております。誠にありがとうございました。これからも、子どもたちを見守って頂きたいと思っております。

私が、ここで特に申し上げておきたいことは、子どもたちに、きっかけを作ってやることは出来ても、気の利いた後押しを、ある一定期間、少年たちに与えてやるのが、大変重要であり、難しいことであるということです。私が思っている気の利いた後押しとは、子どもたちのやりたいことをタイムリーに与えてやることです。やりたいことを見つけられても、移り気で、動き回る子どもたちにタイムリーに、場所や道具、指導者を与えてやるためには、やる気のある大人の存在と、行政等との連結が不可欠です。

私は、これまでの活動を通して、色々なボランティア組織が、志し高く立ち上がってはつぶれていく現状を、いやと言うほど見てまいりました。往々にして私たち大人が、子どものためにと称して立ち上げる組織では、自分たち大人の都合が優先されてしまいがちです。ましてや、行政との連携ともなると、子どもの現状や子どもの都合など、吹き飛んでしまっているというのが私の率直な感想です。

私が最近関わった、ある公立中学校の事例で、硬直した縦割り行政のつまらなさが、いかに発揮された場面に直面してしまいました。それは、校内で暴れる生徒が居るということで、少年補導協助手員として中学校に出向いて行った時のことです。ある少年が、校舎外壁の突き出したハリの部分に座り込んだり寝っころがって先生を挑発していたのです。駆けつけた私に、その先生は、「ワー大変だー」と言って現場を離れ、職員室に駆け込んでいきました。

その間、私は少年を脅したり、すかしたりしながら説得して、少年を校舎内に戻し、事無きを得ました。暫くして、現場に同僚の先生と「ワー大変だ」と言った先生が戻ってきました。私は先生に「今度、こういった生徒や先生の身に危険が及ぶような事



態には、間髪入れず警察に連絡を取らしていただく」と申し上げたところ、その先生は「申し訳ありません。学校内の出来事で、警察に連絡できるのは、校長だけです」と、いらん世話はするなど、言いたげでありました。

私の申し上げる大人の都合とは、こういうことであります。最近特に、少年犯罪の低年齢化と、万引きや窃盗等の犯罪が多発しています。こうした犯罪の芽を事前に摘むためにも、子どもたちに対して、大人が毅然とした態度で臨んでいかなければなりません。特に、直接子どもたちに触れる機会の多い教育関係者の方々には、大人の都合ではなく、子どもの為の行動を起こして頂きたいと節に願っております。

● 事務局（角井生活安全企画課長）

ありがとうございました。

子ども達の立直り支援については、まさに、ご発言のとおり、やる気のある大人と警察をはじめとする行政との連携が必要不可欠であると思います。

今後ともご協力をお願いいたします。

続きまして、本日の事務局説明にもありましたように、来年の重点的な取組であります「万引き防止対策」について、現在取り組んでおられますコンビニエンス・ストア防犯連絡協議会の乗重様をお願いしたいと思います。

● 乗重委員代理（広島県コンビニエンス・ストア防犯連絡協議会）

私は、株式会社セブン-イレブン・ジャパン中国地区涉外担当の乗重と申します。

本日は、「広島県コンビニエンス・ストア防犯連絡協議会」を代表しまして、コンビニエンス・ストアが現在取り組んでいます万引き対策についてご紹介させていただきます。

私どもは、万引き等、コンビニエンス店舗で発生する犯罪は我々に責任があるという認識にあります。

特に万引きに関しましては、老人から小さい子ども達までと、年齢は幅広く発生しています。

子ども達の将来性を考えると、我々の責任は大きいと痛感しています。

そういう認識のもと、防止対策を考え、実行しており本日は対応例として紹介させていただきます。

まず、私たちはあいさつの徹底を行っております。

警察の方のご指導もあり、犯罪の多くはあいさつで防止できていると思っています。

お客様の入店時はお客様の目を見て大きな声で笑顔で「いらっしゃいませ」というようにしています。

通路ですれ違うときも「いらっしゃいませ」と声をかけるようにしています。

店内チャイムで作業中でもお客様の来店が分かり売場にいる全員でも声をかけるようにしています。

次に、私たちは「隙の無い店を作る」ように心がけています。だらしない店は犯罪者から狙われます。駐車場の清掃、店内の清掃、商品の陳列など、お客様から見て、スッキリとした店を作っています。

ジュース1本お菓子1個お買い上げの場合でもお客様の同意を得て色のついたシールを貼らせて頂き、お買い上げ後かどうかわかるようにしています。

買物かごの利用も積極的にお勧めし、レジ精算前の商品を明確に分かるようにして



います。

また駐車場，店内の清掃，商品の整理整頓を通じ，お客様に常に注意を払っています。「お客様が何を欲しがっているのかな」，「なにか困っていることはないかな」と常に意識しています。

その中でキョロキョロするなど挙動不審の人には「なにかお探しですか？」など声をかけるなど注意をしています。

また傍らで商品の整理などを行い，失礼のない程度で「私たちはあなたに注意していますよ。」ということを知るようにします。子ども達の場合は特にこれは重要となります。

店内で飲食，雑誌売場での長時間の立読み，座り読みなどは細かく注意しています。

防犯機器関連では防犯カメラの設置を促進しており，店内への設置はほとんどの店でできています。

現在は，駐車場など屋外への防犯カメラの設置も，本部と業者との交渉により割安に契約が出来るようになっており，設置促進を行っています。

万引きは，捕まえても氷山の一角だと思っています。

また捕まえるなどの行為は，逆上など店側の人的被害に繋がる可能性もあります。

どのような犯罪もそうですが，「犯罪を未然に防ぐ」という意識のもと，これからも徹底を図っていきます。

● 事務局（角井生活安全企画課長）

ありがとうございました。

事業者として取り組まれている万引き防止対策について貴重なご発言ありがとうございました。

今後，警察といたしましても，事業者に対する防止対策の働きかけを行う上で，ご紹介のあった取組等を参考とさせていただきたいところであります。

では，もうおひとかた，以前からいくつものボランティア活動に参加され，子どもの安全対策に造詣が深く，この度広島県内警察署協議会代表として委員に就任していただきました浅野委員にお願いしたいと思います。

● 浅野委員（広島県内警察署協議会代表）

広島東警察署協議会会長の浅野典久です。

現在は，民生・児童委員，主任児童委員，青少年育成協議会，竹屋南中ソーランのよる居場所づくりの活動も行っています。以前は協助手・少年指導員の活動も経験させていただきました。その当時私は縁あって母校でもあり，我が子が通っていた小学校のPTA会長を務めさせていただいておりました。

そのときの取組をお話しします。

当時，小学生・中学生に対する不審者の声かけ事案を少しずつ耳にするようになっていました。その頃の学校は，児童が登校したら門を閉じて，関係者以外はなかなか入るのをためらうような状況でした。教員は内部では防犯教室などを定期的に行い，児童にも知らない人には付いていけないなどの知識は教えていましたが，児童・保護者ともに個人の防犯意識はあまり高いものではありませんでした。

その頃，当校に不審者が侵入するという事件が起こりました。幸いにも怪我人など



はありませんでしたが、児童・保護者にとってはとてもショックでした。安全だと思っていた学校に不審者が入ったこと、それに自分の防犯意識がとても低かったことを身をもって体験したからです。

それから、学校・保護者に働きかけ集団登校をするようになりました。

「朝、決まった時間・決まった場所に集合し、高学年が低学年の面倒をみながら登校する。そこに保護者が集合場所や通学路に立ってあいさつを交わし安全確認をする。」街中の学校では、かなり難しい取組でした。保護者だけでは続かないと思いました。

そこで、地域にも輪を広げ、通学路でのあいさつ運動・見守り活動を呼びかけました。

今までは、小学生のいない家庭では小学校は門に閉ざされた空間だった場所を、開放し、自由に学校内を巡視してもらえるように学校にも働きかけました。

すると、地域の方、保護者は行事以外の日でも学校に顔をだし、子どもたちも素直にあいさつを交わせる環境になりました。

通学路に立って見守ってもらっているという安心感に子どもたちから話しかけることもありました。

また、朝の登校時のあいさつは、校長先生へのハイタッチで始まるのが習慣になり、今でもそのハイタッチは続いています。

現在、小学校の門は開放はしていませんが、門前にはインターホンが設置され、来校者は事務室から確認できるようになっています。

これは提案ですが、現在行われている学校もあるかも知れませんが、正門を入ってから事務室までに色をつけた線を引き、来校者はこの線にそって事務室まで来ていただくというシステムはどうでしょうか。

児童や職員が学校に来られる地域の人や関係者の顔を全て覚えることはできません。

この線を通らずに、外れたルートで学校内に入って来た人は注意深く見ることが防犯意識の高まりにもつながるのではないのでしょうか。今後の何かの機会があれば、検討していただければと思います。

減らそう犯罪も個人の防犯意識を高めることから始まると思います。

今後も、地域のおじさんとして、子どもたちの「目線に立った」地域活動を続けていく、それだけでも私の出来る「減らそう犯罪運動」だと思います。県民・行政・警察の連携を深め、それぞれの役割分担を明確にし、実行していくことが大切だと感じ、本推進会議の委員をお引き受けし、自分自身の活動を深めていければと思います。

● 事務局（角井生活安全企画課長）

ありがとうございました。

子どもの安全を守る活動に関しまして貴重なご意見ありがとうございました。

今後も、子どもと保護者、学校が一体となった取組の推進に関しましてご協力をお願いいたします。

時間も押して参りましたので、ここで各副会長からご意見をいただきたいと思います。中原副会長、いかがでございましょうか。

● 中原副会長（広島消費者協会）

社団法人広島消費者協会会長の中原でございます。

皆様方におかれましては、平素から「減らそう犯罪」広島県民総ぐるみ運動にそれぞれ取り組んでいらっしゃるのだと思います。

先程は、個人として、あるいは団体として、それぞれ貴重な取組を説明していただいたところでありますが、ここで私から1つ提案があります。

本日、事務局からご説明をいただきましたところでは、今年の1月から9月までの刑法犯認知件数につきましては、平成14年同期比で50パーセント削減、平成20年同期比は、マイナス3.3パーセントで、刑法犯認知件数に占める割合が高い自転車盗と万引きは、逆に、前年同期比で増加傾向にあるということでした。

このため、「減らそう犯罪」ひろしまアクション・プランの最終年に当たる、平成22年は、自転車盗対策と万引き防止対策について重点的な取組を行い、行動目標の達成を確固たるものにしようということでありました。

これらの対策を推進していく上では、事業者や個人の意識改革が大切であると私は思いますので、本日お集まりの皆様方の御協力のもと、誰もが安全・安心を実感できる広島県の実現に向けて、一致団結して取り組んで行こうということをご提案申し上げます。

どうぞよろしく申し上げます。



● 事務局（角井生活安全企画課長）

ありがとうございました。

続きまして、角廣副会長申し上げます。

● 角廣副会長（広島県防犯連合会）

社団法人広島県防犯連合会会長の角廣でございます。

先程来、委員の方から、大変熱のこもったお話、あるいは実践してこられたケースをお聞きして、感銘を受けました。

そういうことで、この運動自身は大変、認知度も進み、効果も出ていると思います。

データの的にも、先ほどお話しがありましたように、平成14年に比べて刑法犯の認知件数は50パーセント減という大変画期的な成果を挙げていると思

いますが、みんなが“安全・安心”を実感するという点では、まだ依然として5割の方が、犯罪被害に対する不安感を抱いているという課題もありますし、来年が第2ステージの最終年になりますが、刑法犯認知件数減少率の鈍化が心配であるとの御報告もありました。

私も私の立場で、また本日お集まりの皆様も皆様方の立場で、今一度、原点に戻って考え、第2ステージの最終年となる来年に向けて、今から取り組んでいただきたいと思

います。これは、私の感謝の気持ちと、感想でございますので、どうかよろしく願いいたします。ありがとうございました。



● 事務局（角井生活安全企画課長）

ありがとうございました。

委員の皆様方からもっと多くのご意見なり、ご感想をいただきたいのでありますが、時間の関係もございますので、会長代行の岩崎副会長に、本日の全体のまとめをいただきたいと思っております。

岩崎副会長、よろしくお願ひいたします。

● 岩崎副会長

委員の皆様には、実際の活動に基づく貴重なお話やご意見をいただきありがとうございました。

本日の皆様方のご意見を踏まえながら「減らそう犯罪」ひろしまアクション・プランの行動目標の達成に向けて取り組んでまいりますので、皆様方におかれましても、より一層の御協力をよろしくお願ひします。

また現在のアクション・プランは、残りあと1年となりますので、来年は、平成23年以降の運動の展開についても、皆様と相談しながら考えていきたいと思っておりますが、当面は、刑法犯認知件数をピーク時から半減させるという現行の行動目標の達成に向けて、皆様と一緒に努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。



● 司会：上田生活安全企画課課長補佐

以上をもちまして、第8回広島県「減らそう犯罪」推進会議を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。